

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	JYU×JYUステーション		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 16日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 3月 16日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	制作活動に取り組んでいる。(毎月1作品仕上げる)	制作を通して、美しいものに触れる機会作り、最後まで取り組めるように支援する。	利用児童の希望を聞きながら、興味が持てる内容を考えていく。
2	事業所の立地の良さ。 静かな住宅地の中にあり、車の危険などを心配せず送迎でき、外(事業所の前)で遊ばせることが出来る。2階と3階の穏やかな環境の中で家にいるような雰囲気過ごせる。	厨房でのクッキングや事業所前での外遊び、座卓での学習に取り組んでいる。(低学年児は特に座卓での学習をしている。) 3階は、個別配慮が必要な時や、全員で映画を見る等、環境を生かした療育活動の場として使っている。	2, 3階の使い方は、今後も子ども達の様子に合わせてその都度変更しながら、最適な環境を整えていきたい。
3	活動が充実している。	毎月や季節に合わせた制作の他、季節の行事やお誕生会、自然体験活動、クッキング、SST、博物館や工房見学等を実施している。	制作やイベント、季節の行事は継続していく。日々の活動については、利用者の成長発達に合わせた難易度や設定を考えて計画する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子供たちと活動する機会が少ない。	近くの児童館を利用するための手続きが煩雑、かつ児童館が混んでいる。	数か所の児童館の利用手続きをし、込み具合をみて利用する。近くの公民館や児童館の行事を調べて積極的に参加する。
2	事業所の中に体を動かすスペースが少ない。	事業所は一般住宅なので、室内に思い切り走ったりジャンプする広いスペースはない。	順番を決めて、交代で近くの公園で遊ぶ機会をつくっている。
3	非常災害時対策の周知が不十分である。	非常災害時の対応・職員間の周知方策が不十分である。訓練実施について見える化できていない。	定期的に行っている避難訓練について、保護者様と共有できる形で発信していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
JYU×JYUステーション		2026年 5月 28日				
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用者が過ごしやすいうに適切なスペースが確保できるように工夫している。	利用者の活動内容によって、部屋を使い分けたり、学習時は集中して取り組めるよう、静かな部屋を利用したりしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		基準よりも多くなるように職員を配置し、余裕を持って接することができる。	中心となる職員だけでなく、パートの職員を入れて利用者が安心して過ごせるように配慮している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		生活空間はわかりやすい構造になっている。	現在、バリアフリー化の必要な利用者が来ていないため、バリアフリーの措置が必要な時は相談して取り入れるかを検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		活動に合わせて環境設定を行っています。消毒、換気等を適宜実施し、過ごしやすい環境づくりに努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		体調不良者など必要に応じてルールを決めて個別の空間を利用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		全体ミーティングだけでなく、療育開始前や送迎終了後等の中、ケース会議や療育の振り返りを行い、PDCAサイクルを意識して取り組む様になっています。	今後日頃の療育の振り返りや、利用者の目標設定に活かしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		年度末の時期にアンケートを配布し、保護者の意見を把握する機会を設けている。それを職員間で話し合い事業改善の手立てにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		全体ミーティングや療育開始前に活動決めなど意見が言いやすい雰囲気を作られている。日頃よりミーティングを行い、意見を出せる場がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	外部評価は行っていないが、関係機関からの声を聴き、業務に生かしている。	第三者委員会など実施しておりませんが、モニタリングや担当者会議などを通じ指摘された箇所も早急に修正し、業務の改善に努めている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		事業所内研修だけでなく、外部の研修や動画視聴型の研修にも参加している。	R8年度は、法定研修を全員必ず受講するため、外部の研修専門のサイトを利用することにした。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		事業所の特色を取り入れた支援プログラムを作成した。	プログラムをホームページにて公開している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		定期的に職員から聞き取りを行い、児発管だけでなく、職員にも作成した放課後等デイサービス計画を周知し、共通理解を持つようになっている。	日頃の送迎の際に、利用者様の様子を共有し、よりそれぞれのご意見に沿った支援計画を作成していきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		活動に入る職員全ての意見を元に、毎日のミーティングで様子などの共通理解をし、検討ができています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		職員間で共有され、それに沿った内容を支援している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	利用者の聞き取りの際に、事業所のアセスメントシートを使用し、他の職員にも分かりやすく適応行動の状況把握が出来る様にしている。	どの職員でも使用できるように、定期的に様式の見直しや項目の変更等、利用者の適応行動をしっかりと把握出来るように見直しも行っていきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		必要に応じて支援内容を設定している。	家族支援の設定はしているが、地域支援・地域連携の設定は不十分なので今後は支援内容に設定していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		全体ミーティングを開催し、事業所の職員で相談しながら活動の立案を行っている。	今後は全体ミーティングだけでなく、日々の療育の中で利用者の様子や活動を踏まえ、日頃から活動プログラムの意見を職員同士で出し合えるような雰囲気づくりをしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		利用者の活動が固定化されないように、職員同士で意見を出し合いながら活動内容を決定し、日々の活動の支援を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		来所が楽しみとなるような活動にすべく努力をしている。また、集団活動と個別活動、双方で支援ができるよう準備をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		利用者の来所前に、職員同士で送迎の確認や活動の流れ、担当する職員の確認を行っている。	今後も利用者の来所前に、送迎の確認や活動の流れ、担当する利用者の確認を全体だけでなく一人ひとりと確認するように行っていく。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	支援終了時に、利用者の事業所内での様子や活動内容、その時どのように関わった等、職員での支援の振り返りや気づいたことを出すように取り組んでいる。	送迎の関係で定時が過ぎてしまうこともあるため、その場合は次の日に送迎開始前の確認と合わせて必ず引継ぎをするようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	その時の利用者の様子や、いつもと違うことがあったら職員間で意見や気づいたことを出し合い、それを記録し検討・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	定期的にモニタリングを実施、職員で内容の検討後、利用者の現状に沿った計画を作成できるように対応している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を実施している。	ガイドラインの総則の基本活動について、まだ職員への周知が不足しているため改善していきたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	活動の中で、利用者「公園に行く?」「室内で過ごす?」など個別に話を聴き、活動を選択できるように配慮をしている。	全体で意見を言うことが難しい子に対しては個別に話を聴くなどの配慮を今後も行ってまいります。選択の幅が固定化しない様、配慮をしていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	事前に職員から、利用者の事業所での様子やアセスメント用紙を使って利用者の行動把握をし、管理者が会議に参加している。難しい時は利用者との関わりが深い職員が会議に参加するようにしている。	今後も、職員同士で意見を出し合い、会議には管理者がその利用者との関わりが深い職員が参加するようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		専門機関との連携を今後検討していき、支援体制を整えていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	その都度、学校・担任の先生との情報交換や連携を図っている。各学校のスクリーンも活用している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	小学校～中学生の利用者が多いため、在学する学校の担任や相談支援事業所、他の事業所との情報の共有をその都度行っている。	今後も利用者の関係者・関係機関と連携を図り、相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	移行の際は、利用者の担当をしている相談支援事業所を通して情報の提供や共有を行っています。	今後も移行の際は、利用者の担当をしている相談支援事業所を通して情報の提供や共有を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		現在、地域の児童発達支援センターと直接的に連携する機会はありませんが、今後必要に応じて対応してまいります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	公共施設や児童館等を利用した際に他児童との関わりがある。	何度か交流する機会を計画したが、時期やタイミングが合わないことも多かったため、今後も他の児童館との交流を計画していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		協議会への参加が出来ていないので、事前にスケジュール等を調べて参加出来るようにしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	利用者についても違う変化が見られた場合、ラインや送迎時に様子を伝えている。また、必要に応じて電話やラインを通じ保護者に連絡・報告をするように取り組み共通理解をしている。	モニタリングでの情報共有だけでなく、電話やメールでの確認や、送迎時に利用者のその日の様子やこれからの目標についても双方で共通理解が持てるように取り組んでいきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		専門性を高めるため研修等に積極的に参加し、その内容を保護者に周知していきたい。また、保護者への研修情報提供も行っていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	支援の内容や利用者負担等の説明では、保護者が分かりやすく、納得が得られるように丁寧に説明している。	職員にも運営規定、支援の内容、利用者負担等について周知し、保護者から説明を求められた際に対応出来るようにしておく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	定期的に利用者との面談の機会を設けモニタリングを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	モニタリングにて保護者と現状と課題について考え、計画書を作ったのち、再確認をお願いしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	家庭での利用者への関わり方や声かけの仕方等、育児の相談も多く寄せられているので、その都度支援を行っている。	今後も家庭からの悩みや相談に対して、必要に応じて助言や支援を行っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		現在は開催していないが、保護者から一定以上の意見が出た際には事業所でも検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	事業所への電話やメールだけでなく、事業所の方にも苦情箱を設置し、苦情があった場合は早急に対応している。	苦情が出た場合は、管理者と対応を検討し、早急に対応するようにしていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	定期的にお便りを発行し、活動内容や行事の予定、連絡体制等を周知している。	ブログにて活動内容が分かるようにしている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	事前に同意を取るようし、文章等はシュレッダーにかけている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	利用者が分かりやすく、聞き取りやすいように配慮しながら伝えるようにしている。また保護者への連絡も電話やメール等で対応している。	利用者によっては複数回確認を行ったり等、特性に応じて配慮をし、保護者に対しては、行事や準備が必要な物は前もってお知らせするようにしていく。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	事業所を使った地域交流はまだ行っていないが、地域でのイベントには出来るだけ参加し、地域交流を図っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			各種マニュアルを策定してあるので、職員や保護者の理解が得られるように周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年に2回の避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			現在、必要な利用者は事業所を利用していない。今後は、新規の利用者でケアが必要な方が求められた時は、確認し対応していきたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			現在、食物アレルギーを持ち、医者からの指示が必要な利用者がいないため、今後そういった指示書がある利用者が求められた場合は職員間での情報の共有をし、指示書を基に支援を行っていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		年に2回防災訓練を実施。職員間で避難誘導や人数確認などの役割を分担し、連携を確認している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		昨年度は、送迎時の乗車のマナーやシートベルト着用などの利用者の安全確保を実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットを作成してあるので、危険な場面や箇所を記録し、事業所間で共通理解し、再発防止を実施している。	記録として残した事例を、全体ミーティング等で全職員に周知するようにしていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会を中心に研修を実施しています。	社内研修だけでなく、外部の研修にも参加し、職員の専門性の向上に努めていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		8		原則として身体拘束は行わないが、やむを得ず身体拘束をせざるを得ない場合は、事前に委員会を通して保護者への説明をし、身体拘束を行った場合は、指針に記載された手順に則って手続きを進め、記録用紙に記録し、その後の経過観察を行う。